

锅勞福協

第 493 号 2009年2月25日

発 行 所 石川県労働者不 発行責任者 上田弘志

〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号 電話 (076) 231-1737

FAX (076) 231-1731 http://www.ishikawa-rofukukyo.jp info@ishikawa-rofukukyo.jp

毎月1回 25日発行 定 価 一部 20円 昭和39年3月30日 第三種郵便物認可



厚生労働省が子育て支援事業の一環として、急な 残業や出張、病気の際に子どもを預かるシステムで ある「緊急サポートネットワーク事業」を平成17年 度から全国的に展開。石川労福協は、当年の10月 17日より事業を開始した。

しかし、昨年9月8日に厚生労働省から石川労福協へ「平成21年度概算要求におけるファミリー・サポート・センター事業の拡充及び緊急サポートネットワーク事業の廃止について」の事務連絡が送付された。

これを受け石川労福協は、谷本正憲県知事や山出 保金沢市長を始め、各自治体の首長・担当者に「廃 止には多くの疑問と問題点があり、拙速に走らず1 ~2年かけてソフトランディングすべきだ!」との 要請を行い協力を求めた。

また、同事業を受託している石川を含め、滋賀、岡山、徳島、愛媛、沖縄の各労福協・関係組織と中央労福協は「利用者が困らないように」と厚労省へ強力に働きかけてきた結果、昨年12月24日、厚労省から「緊サポ事業は平成20年度で廃止するが、病児・緊急預かり対応基盤予算(仮称)として、平成22年度までの時限措置として実施する」との新たな方

中央労福協の取り組み経過報告

緊急サポートネットワーク事業は、平成17年度からスタートし、5年間は継続する予定であったが、厚労省は昨年9月に突如、経過措置もなしに1年前倒しで廃止することを決定。市町村のファミリーサポートセンターに病児預かりなどの機能を付加するよう、実施団体や市町村などに通知した。

しかし、ファミリーサポートセンターのない市町村も多く、あっても病児や夜間に対応できない所がほとんどという現状の中で、「あまりに唐突」、「現在の利用者が利用できなくなる」との不満や懸念が広がっていた。

このため、中央労福協は緊急サポート事業を受託している石川、滋賀、岡山、徳島、愛媛、沖縄の各労福協の問題提起と支援要請を受けて10月3日に厚労省の担当課と折衝し、さらに11月20日には関係労福協と厚労省の意見交換の場を設けた。各労福協からは、「利用者が困らないようにしてほしい」、「4月までというわずかな時間で新たな受け皿づくりは無理。意欲のある自治体でさえ予算措置が間に合わない」、「社会的なニーズが高く、打ち切るわけにはいかない」等、次々と訴え、中央労福協の高橋均事務局長からも「実情を踏まえ円滑な移行ができるよう知恵を出してほしい」と要望した。

こうした声に押されて、厚労省は12月になって、概算要求には盛り込まれていなかった経過措置を求めて財務省と交渉に入った。この結果、12月24日の'09年度の政府予算案で、2年間の暫定措置として「病児・緊急預かり対応基盤整備事業(仮称)」(国の委託事業)が認められ、3億8,360万円(従来の7割程度)が予算措置された。

今後の2年間の移行期間で、緊急サポートの受 皿となるファミリーサポートセンターも含めた総 合的な子育て支援の充実が求められる。

針が示され、2年間延長されることとなった。

なお、「いしかわ緊急サポートネットワーク」の 事務局は、会員(利用会員・サポート会員)全員に対 し、12月末と1月初旬に文書にて以上の内容を連絡 した。

学していしかわ

昨年12月1日に開設された無料職業紹介所「ジョブいしかわ」の2月20日現在の求職者数は63名(内42名が登録)、求人数10社28名を受付し、連日相談活動を展開している。

その他、金沢市の石川県地場産業振興センターで開かれた石川県中小企業団体中央会主催のセミナーと就職面接会などにて、雇用関係の情報収集に努めている。

1月19日(月)の「再就職支援セミナー」には、ジョブいしかわの一明政行・谷内英明の各相談員が参加。社会保険労務士の小林佐智子氏の「再就職を成功させるために」と題した講演を受けた。

小林氏は、求職者の年齢層は45歳~54歳までが



1月23日「第2回 就職面接会」 =石川県地場産業 ,振興センター

27.1%と一番多い事や中高年齢者の再就職の課題、再就職への成功のポイントなどを詳しく説明した。

また、1月23日の団塊世代を対象とした「第2回 就職面接会」は、「ジョブいしかわ」に登録した25 名に対し、事前に案内した結果、数名の方が面接に 挑んだ。

昨年10月の第1回面接会に比べ、約3倍の求職者が参加。雇用情勢が急速に悪化している事が伺われた。

面接会にはタクシーやホテル業、印刷会社など34 社が参加。258名の求職者がブースに列を作り、面 接を受けた。 ジョブいしかわ相談員 一明政行

いしかか緊急サポートネットワーク

第9回 サポート会員研修会

いしかわ緊急サポート県センターは、1月25(日)午前9時半より、フレンドパーク石川で「第9回サポー



ト会員研修会」を開催。28名の参加者は、熱心に講師の話に耳を傾け理解を深めた。

研修会は、才田巖労福協専務理事が挨拶の中で、厚生労働省からの緊サポ事業の廃止に触れ、「向こう2年間の時限措置が設置され、引き続き事業を続けていく」と報告した後、講師5名からそれぞれ"地域で子育てをしていく上で大切にしたいこと"や"子どもの社会性と生活習慣"、"子どもの衛生管理と事故防止"、"病児への対応"、"子どもに起こりやすい事故の予防と手当て"の講義を受けた。

特に、感染症では手洗いやマスク、消毒で自分の 身を守ることも大切であると教えられた。また、救 命措置の心肺蘇生法としてAED(自動体外式除細動 器)の取り扱いも研修した。

最後に、事務局からサポート時の手続きの説明の 後、研修者全員に修了証と会員証が手渡された。

サポート会員はこの後、利用会員との事前面談に 臨み、本格的なサポート活動を展開する。

沖縄労福協と意見交換会

子育て支援「いしかわ緊急サポート事業」が厚生 労働省から『2009年3月末事業廃止』とこれに伴 う向こう2年間の時限措置(病児・緊急預かり対応 基盤整備事業)となったことから石川労福協は、事 業実績の大きい沖縄労福協と意見交換会を実施し た。

2月5日(木)、石川労福協の才田巖専務理事、直 江圭祐アドバイザー、吉田寿子コーディネーター、 紙谷加奈子事務局員の4名が、沖縄県労福協を訪れ、仲村信正理事長、金城幸治常務理事、玉城勉緊 急サポート統括責任者と意見交換した。

「緊急サポートネットワークおきなわ」は2006年10月に発足、以来順調に会員数を増やし、今年1月末現在、利用会員1,162名、サポート会員396名、合計1,558名、預かり件数は1,601件の実績となっている。

特徴としては、ファミリーサポートセンター事業と連携していることが会員の増加に繋がっており、県民の間で緊サポは定着しているとのこと。活動の拠点として、那覇市の「那覇・南部センター」、沖縄市の「中部センター兼事務局」、名護市の「北部センター」の3つのセンターに5名のコーディネーターを配置し、活動を行っている。

一行は、沖縄市の中部センター事務局も訪問し、 與座初美緊急サポート総括アドバイザー他職員3名 と沖縄における現場の預かりやマッチングの苦労話 などを聞き、意見交換した。

緊急サポートアドバイザー 直江圭祐

連合石川 労福協 労 金

弁護士 社労士 司法書士

非正規労働センタ-

急激な景気悪化による雇い止めや中途解雇 の増加に対応するため、連合石川は県労働者 福祉協議会や北陸労働金庫と連携し、非正規 労働者の相談、支援に当たる「非正規労働セ ンター」を開設した。

また、1月31日にはJR金沢駅東口のもて なしドームで「出張相談コーナー」を設け、 急激な景気悪化によって契約を打ち切られた 派遣労働者らの相談に応じた。

設立集会で湯浅氏が講演





湯浅事務局長

1月26日(月)、フレンドパーク石川で「非正規労 働センター」設立集会を開催。冒頭、上田弘志連合 石川会長が「組織を挙げ、非正規労働者の待遇改善 に取り組んでいく」と参加者に訴え、協力団体の梅 澤彰人県労福協副理事長(北陸労働金庫県本部長)と 栄重光社会保険労務士、喜成清重司法書士が激励挨 拶した。

狩山久弥事務局長が活動方針を提案、連合本部の 一條茂組織拡大・組織対策局長が全国の雇用状況を 説明した。

集会では、東京・日比谷公園の「年越し派遣村」の 村長を務めた反貧困ネットワークの湯浅誠事務局長 が「非正規労働者の現状と労働組合に望むこと」と題 し記念講演。湯浅氏は「今の日本は一度すべり落ち ると再び上がるのが難しい『すべり台社会』。教育

会員募集状況/サポート状況 1月31日現在

地域センター	サポート会員	利用会員	サポート回数
すず	6	9	19 (+2)
わじま	2	10	7 o
ななお	6	4 (+1)	0 0
はくい	2	5	0 0
かほく	15 (+3)	54 (+1)	83(+27)
かなざわ	121 (+13)	311 (+8)	578(+57)
はくさん	28 (+2)	70	94 (+4)
こまつ・のみ	18	34	39 (+6)
かが	3	4	0 0
計	201 (+18)	501 (+10)	820(+96)

()は前月比。尚サポート回数は、今年度の総数



や住宅手当など"階段"を付けることが必要だ!」 と語り、雇用保険の受給資格があるのに手続き等に 必要な費用も賄えないまま生活保護に至るなど、公 的なセーフティーネットが機能していない実例を紹 介。劣悪な労働条件でも働かざるを得ない「ノーと 言えない労働者」が増えると健全な労働市場が破壊 され、正社員の足元をも崩すと指摘した。

また、年齢とともに教育費など必要な支出が増え る社会構造にも問題があると強調。正社員の年功型 の賃金カーブを批判するのではなく「社会全体で支 出構造を変えることを考えなければならない」と述 べた。

JR金沢駅で出張相談を実施





1月31日(土)午前10時~午後3時、JR金沢駅東 口のもてなしドーム地下広場で、非正規労働相談セ ンター「出張相談コーナー」を開設し、派遣や日雇 い労働者らの雇用や生活相談に応じた。

当日は、連合石川と県労福協のスタッフ13名が会 場の準備や受付係をし、弁護士、社会保険労務士、 司法書士の3名が派遣契約打ち切りや解雇などを法 律的立場から助言、ジョブいしかわと北陸労金県本 部、全労済の4名が就職斡旋と生活資金貸し付けの 相談などに対応した。

勤文協 主催

第39回石川県勤労者早春書画·生花展

を彩る力作121点を展示

石川県勤労者文化協会主催、石川県労働者福 祉協議会と北國新聞社が後援する「第39回石川 県勤労者早春書画・生花展」は1月22日(木)から 25日(日)まで、金沢市片町のラブロ片町7F・ アートシアターいしかわで開催された。

会場には、日頃、創作活動に励む県内の勤労者 や主婦、 退職者らアマチュア作家の力作、日本 画8点、洋画35点、書道78点、計121点が展示 された。

また、勤文協所属・華道の草月流・山田珠峰先 生、中村雨光先生、小林嶺智先生、池坊・竹内幸 先生と各生徒による生花33点が会場を彩った。

最終日には、同会場で日本画の下村正一先生、 洋画の端名清先生、書道の氷田清風先生、生花の 山田珠峰先生による合評・総評と表彰式が行われ た。









ター32 → 29 → 29 Bee

うちゅんき35—



勤体協主催「第43回冬季体育大会」

石川県勤労者体育協会主催「第43回冬季体育大 会」が開始された。

2月8日、金沢市営中央市民体育館で開かれた 「卓球大会」は、硬式、ラージの部に過去最多の 120チームが出場して熱戦が展開された。

また、2月15日には、いしかわ総合スポーツセ ンターで「バスケットボール大会第1日目」が開 かれた。今季のバスケットボール大会は、いしか わ総合スポーツセンターを主会場に過去最多の93 チームが出場、予選から白熱した攻防が続いた。

▽決勝 NWS74-30 □ 36 □ 10 □

NWS74-30 FA

◇女子1組▽予選 ①M②

e@FACE@ELE

冬季体育大会はこの後、2月22日、3月1・8 ·22·29日に「バスケットボール大会」、3月15 日に「バドミントン大会」、3月1日に「ソフトバ レーボール大会」、3月15日に「卓球大会(3人3W)」 がそれぞれ開催される。

@NEUTRAL · B®

®西南部クB®ファニーズ梅ク▽3位グループ ①木曜会 ③档の会▽2位グループ NOTOヤンキースA②同B 庫精練②西南部クA③米泉 ◇女子▽1位グループ 松市卓球協会B 1 1

クA▽4位グループ ①コ 会A②FreeStyle styleA③档の会B▽)加賀温泉クB▽3位グル ①米泉クA②G3③宝 ①加賀温泉クA②Y u ①小松市卓球



ため3位決定戦を棄権、5位 EGENZ®ビーグル=4位 のBearsは負傷者が出た のBearsは負傷者が出た 今男子1組▽予選 ①SM ACK②Hardys③ca Bears⑤Mi xB allers⑥スター・ M i x B allersが繰

羽咋卓友会③金沢兼六ク

B▽ゴールド ①能美クA② 金沢兼六クA②能美クA③金 ◇女子▽シルバ ①能美クA②

馬場ちゃん

▽3位決定戦

M i x B

\$ 35 24 c a g e r

道

日本画



「たかのつ北國新聞社長賞

谷鋪 ちづ子 (金沢市)め 」

洋 Ш



勤文協会長賞 「華麗な調べ」 多田 公子 (金沢市)



「 松 竹 梅 」 「 松 竹 梅 」

金

「俳 広島寛子 北國新聞社長賞

(金沢市)



「 早 春 の 予 労福協理事長賞 感



北國新聞社長賞 「新春にむけて」 越崎 順子 (金沢市)



安居 洋子 (金沢市)



金 賞 「鯛 ~夫婦円満~」 エー まさみ (かほく市)



労福協理事長賞 「蟹と手と」 田中 宏見 (金沢市)



銀 子 規賞 山崎 道子 (金沢市)



銀 賞 「主計町」 星 孝次 (金沢市)



銅 賞 「ヴェネツィアの水路」 和嶋 豊治 (内灘町)



銅

池田 . 絹子 (金沢市)

地域ライフ・サポートセンターだより

金沢

NEW・YEAR旗開き



金沢地域LSC と連合金沢の合 同「NEW・Y EAR旗開き」 は1月9日(金)、



約300名が参加して金沢市の労済会館で開かれた。

佐々木良盛金沢地域LSC会長と山口幸 男連合金沢議長がそれぞれの旗を開いた 後、山口議長が「生活と雇用を守り、何 としても政権交代を実現しなければなら ない」と次期衆議院選の必勝を訴えた。

来賓の山出保金沢市長、狩山久弥連合石川事務局長、田中仁民主党県連幹事長代理、森一敏社民党1区支部連合幹事長が祝辞を述べ、衆議院選挙石川1区に出馬する奥田建氏の麻里子夫人が支持を呼びかけた後、佐々木LSC会長の発声で乾杯した。

また、連合金沢推薦の県議会議員と金沢市議会議員や才田巖労福協専務理事らがスピーチした。

参加者は、金沢地域LSCと連合金沢の役職員がお世話するおでん・焼き鳥・寿司・そば・水割りを食し、じゃんけんゲームを楽しんだ。

金沢地域LSC事務局長 谷内英明

福祉施設へ寄贈

金沢地域 LSC労金部会 は、昨年11月 29日(土)、金 沢市の県産 業展示館2号 館で行われた



「ありがとうろうきんフェスタ2008」での『物価にチャレンジコーナー』の売上金10%と『ちびっ子ゾーン』の売上金全額を合わせた57,930円を1月28日(水)、金沢市長田本町のNPO心身障がい者小規模作業場パッチワークへ寄贈した。

施設の担当者から「毎年ありがとうございます。大切に使わせてもらいます」と感謝され、今後もこの活動を継続していくことに大きな意義を感じた。

金沢地域LSC事務局長 谷内英明

輪島·穴水

新春の集い

輪島・穴水地域LSCと連合石川輪島・穴水地域協議会の合同「新春の集い」は1月14日(水)、輪島市のホテル高州園を会場に45名の参加者で開催された。

冒頭、主催者を代表し上野正剛LSC会長が「衆議院選挙石川3区に出馬する近藤和也氏の当選を勝ち取らなければならない」と挨拶。坊真彦連合石川副会長と川上嘉雄北陸労働金庫輪島支店長が祝辞を述べ、梶文秋輪島市長のメッセージが紹介された。

園又輝夫地協顧問の発声で乾杯した新春の集いは、参加者の和やかな歓談で進められた。

最後に池端孝雄地協議長の力強いガン バローで、'09春闘と衆議院選挙の勝利 を誓い合った。

輪島·穴水地域LSC事務職員 境 薫



七尾·鹿島

新春の集い



七尾・鹿島地域LSCと連合石川七尾・鹿島地域協議会の合同「新春の集い」は1月16日(金)、七尾市の七鹿労働福祉会館で行われ、約100名が次期衆議院選や七尾市議選での必勝と'09春闘の勝利を誓い合った。

冒頭、主催者を代表し佐藤喜典地協議長が「働く者が安全に過ごせるよう、我々の政策実現が大事」と挨拶。西田満明連合石川副会長、松田清良社民党七尾支部代表、古田秀雄七尾市議が祝辞を述べ、石川3区から出馬予定の近藤和也氏が支持を呼びかけ、野田昭一LSC会長の発声で乾杯した。

参加者は、松崎智徳地協事務局次長と 井田孝之LSC事務局長の司会による「お 楽しみ抽選会」で今年の運を試した。

七尾·鹿島地域LSC事務職員 高山真里

珠洲-能登

老人福祉施設へ タオル贈呈

昨年の12月10日(水)、珠洲·能登地域 LSCボランティア部会が例年実施している「老人福祉施設へのタオル贈呈」を 行った。

当日は朝から天気が悪く、雨風の中、地協組合員らが拠出したタオル1,472本を午前9時30分から、役員2名と職員3名が車2台に分かれて珠洲市と能登町の6施設へ向かった。

各施設では、職員と入所している高齢者の方々に玄関ロビーまで出迎えていただいた。早速、LSC役員がタオルの入った箱を手渡すと、施設の皆さんから「毎年ありがとうございます。大切に使わせていただきます」と感謝の言葉が述べら





れた。

天候のことも考え、来年はもう少し早い時期に実施できるように検討したい。

珠洲·能登地域LSC副会長 本間清治

白山·野々市

新春の集い



白山・野々市LSCは1月14日(水)午後6時より、白山市学習センターのコンサートホールで「'09新春の集い」を開催した。

悪天候の中、参加者は出演者も含めて 約250名と、昨年に比べて人数は減少し たが、会場は参加者の熱い雰囲気に包ま れた。

今年で6回目の集いは、松任文化協会に加盟する「渋川流剣詩舞道天誠会」、「宗家藤間流ひろみ会」、「紫会」の3団体が色鮮やかに凛々しく華麗にステージを盛り上げ、会場は拍手で渦巻いた。

幕間では、主催者の油省三LSC会長が「勤労を尊ぶわが国の文化が幾多の不景気に打ち勝ってきた。お互い助け合って頑張ろう」と述べ、また、来賓の綿征一労福協常務理事が挨拶した。

最後に、恒例となった「お楽しみ抽選会」では、賞品に地元産の麒麟ビール・ 桜たまご・米・醤油と川端園芸の花鉢が用意され、当選番号が発表される度に会場のあちこちで歓声が上がった。

当日は、冬型の気圧配置が強まり、大 変寒い日となったが、参加者は楽しい一 時を満喫した。

白山·野々市LSC会長 油 省三

消費者行政懇談会

石川県消団連は1月23日(金)フレンドパーク石川で「'08年度消費者行政調査報告」と「地方消費者行政活性化基金」について、県消費生活課と県下各自治体消費生活支援センター(加賀市・小松市・能美市・白山市・金沢市・かほく市・羽咋市・珠洲市)の14名に消団連と生協連関係者から11名の計25名が参加し懇談会を開催した。

消団連としては、平成20年度で県

^{緊急サポートネットワーク} 親子でケーキ作り

白山・野々市LSCでは、緊急サポートネットワーク活動の一環として、利用会員とサポート会員の交流を図り、かつ、親子で触れ合いながらケーキ作りを体験できる場として、「親子でケーキ作り」を2月7日(土)午前10時より「プラスあさがお松任」で開催した。

交流会には19家族46名が参加し、最初に直江圭祐・緊サポアドバイザーが白山・野々市地域における事業の現状と将来についての説明をした後、講師の青木クッキングスクールの加藤先生からケーキ作りの基本や手順の説明を受け、作業を開始した。

加藤先生の軽妙でウイットに富んだトークで参加者の笑いを誘い、流れるような動作で何気なくこなす作業も、参加者が行うととにかく難しく、見るとやるとでは大違いといった場面も多く見られた。子供達は、大好きなチョコレートケーキとあって、賑やかな歓声を上げながら、それぞれの家族独特のデコレーションを作り上げた。

次年度は、形を変えた中での地域行事 も模索する必要があると感じた。

白山·野々市LSC事務局長 福村 滋



内3箇所の生活相談室廃止等、消費者 行政の弱体化に何とか歯止めをかけた いとの思いから開催。会議は、田上照 夫県消団連代表と多賀憲二県民生活課 課長が挨拶。消団連事務局より「08年 度消費者行政調査」報告と、「地方消費 者行政活性化基金」の活用について提 案した。

意見交換では、基金を活用して相談窓口の設置や改修、人材育成のための研修費用、弁護士等の専門家の力を活用するための費用などが市の職員の方から報告された。

また、県の生活相談室廃止にともない、広域消費生活センター設置の必要性、構想を持っている自治体から意見が出され、消費者団体としても、今後このような動きに対して支援していく必要性を感じた。

県消団連事務局長 表 重男

河北

退職前セミナー



1月24日(土)、河北地域LSC主催の「平成20年度退職前セミナー」を内灘町文化会館で、昨年に続き馬場壮一郎社会保険労務士を講師に迎え開催した。

馬場氏は「定年と生活設計」と題し 講演。スクリーンを使用し、豊かな定年 制度「団塊が、また時代を変える」や年 金制度「年金の概要」と「ねんきん特別 便」の見方、改正雇用保険、医療保険制 度、60歳代前半の働き方と公的給付金 の関係の他、最近話題となっている「名 ばかりの管理職とは」を分かりやすく解 説した。

今回のセミナー開催に際し、北國・北陸中日新聞に折込チラシを内灘町で実施した効果か、今年初めての本格的な寒さの中、32名が参加。講演後、4名の個別相談も実施した。

このような有益なセミナーをもっと多くの人に聞いていただくため、次回は、現役組合員にどう伝えるかが課題だと改めて認識させられた。

河北LSC事務局長 吉川武久

米粉を使った料理教室



石川県消団連は2月10日(火)、JA 金沢市料理実習室で国産のお米から できた米粉を使った青菜(ほうれん草) 入りのロールケーキ作り教室を開催し た。

消団連の各団体から、男性2名を含む30名が参加し、JA金沢市女性部の指導の下、ほうれん草入りの生地にきな粉入りの生クリームを丁寧に塗った。その他、根野菜のサーモン入りカルパッチョも作り、最後に全員で試食した。

県消団連事務局長 表 重男



1月28日(水)、金沢勤労者プラザにおいて北陸3県で 活動するNPO法人・ボランティア団体へ北陸労働金庫 から助成金が贈呈された。

目録贈呈式では、川淵尚志北陸労働金庫理事長が「労 働金庫は、働く人のための金融機関であり、安心・安 全・貢献をモットーにしている。NPO助成金制度は、 『貢献』の一環として続けており、今後も地域に根差し た活動に取り組み、熱心に働いている皆さんをしっかり 応援していきたい」と挨拶し、代表者一人一人に目録が 贈られた。交付団体を代表して、NPO法人「志ネット ・石川」(石川県金沢市)の林浩陽幹事からお礼の言葉が 述べられた。

今年度で6回目となるNPO助成金制度は、北陸3 県の24団体から応募があり、審査の結果、すべての団 体が助成金制度の趣旨に沿った活動をしていると判断 し、総額295万円が贈呈された。助成金交付団体を代表 し、NPO法人茶道「清風の会」(富山県高岡市)とNP 〇法人「おとぎの杜」(石川県金沢市)、NPO法人「今 立ファミリーサポートひなたぼっこ」(福井県越前市)の 3団体から活動報告が行われた。また、交流会では参加 した各団体が情報交換を行い、親睦を深めることができ 北陸労働金庫石川県本部次長 津田 勝

2008年度 石川県内の交付団体

トトロの家、BCSG石川、福寿草の郷、・あつまろう会、 かなざわ総合スポーツクラブ、おとぎの杜、犀川河川愛護 会・志ネット・石川、城と庭のボランティアガイドの会、石川 県歩こう会連

2月4日(水)、塩見 俊輔岡山地区労福協副 議長ら5名が、石川労 福協とライフ・サポー トセンターの視察研修 で来局した。

フレンドパーク石川 の会議室で行われた交 換会で、才田巖石川労 福協専務理事より、石



川労福協の組織や各事業団体との連携、地域ライフ・サ ポートセンターと連合地協、労働金庫支店との関連等につ いて説明した後、意見交換を行った。

岡山県は現在4地区にライフ・サポートセンターが設置 されており、今後、連合地協の再編問題や石川県と異なり 労金支店と連合地協のエリアの違いはあるが、出来るとこ ろから順次設置していく予定とのこと。また、石川の地域 ライフ・サポートセンター活動を支える財源の中で、自治 体からの補助金と事業団体からの助成金について質問が集 中した。 県LSC事務局次長 一明 政行



2月10日(火)、加賀観光ホテルで2008年度・北陸労 働金庫理事監事・ろうきん運動推進委員会合同会議(15 名出席)が開催された。

冒頭、大村正人常務から「アメリカ発の世界的大不況 の影響をストレートに受けている経営環境にあって、資 産運用の厳しさに苦しみながらも預金融資の残高は順調 に推移しており、今年度3月末決算に向けて役職員一丸 となって頑張っていきたい。今後ともより一層のご協力 を賜りたい」と挨拶。併せて収支状況報告がされた。

会議では、山口降部長から事業概況及び各種課題別の 目標・実績が報告され、長田孜副本部長から2009年度 事業計画策定スケジュール(案)と就職安定資金融資の取 り扱いの2点を協議事項として提案。質疑では、①融資 新規実行の今後の見通し②年金受取口座の紹介活動にお ける地域LSCの取り組み状況③就職安定資金融資の制度 上の問題点及び法的解釈、以上3点に論議が集中した。

川淵尚志理事長からは「派遣切り、雇い止めに係る厳 しい情勢を踏まえて、就職安定資金融資の取り扱いを原 価割れ覚悟で対応しており、本日現在の実行件数が全国 で2,085件、北陸労金で49件あり、多重債務救済など 生活応援運動で全国労働金庫協会と全国の13労働金庫 が'08年度《ニッキン賞》を受け、今後も労金らしさを 発揮していきたい」と決意が述べられた。

最後に、出席者全員でろうきん運動推進に係る状況認 識を揃えながら、協議事項を含めた喫緊の諸課題の推進 に向けて、石川地区としての当面の方向性を確認した。

北陸労働金庫石川県本部次長 津田 勝

地場産業センター

< 1月>

17(土) 社民党新春の集い

金沢スカイホテル 19(月) 再就職支援セミナー 地場産業センター

21(水) ユニオントラベル協力委員会 フレンドパーク石川

23(金) 就職面接会

25(日) 緊サポ・新規サポート会員研修会 フレンドパーク石川

29(木) 中部労福協第4回幹事会(~30日) 福井県

31(土) 非正規労働センター「出張相談」 JR金沢駅

< 2月>

事

Е

2(月) 事務局会議

フレンドパーク石川 フレンドパーク石川 4(水) 岡山労福協視察来局

5 (木) 沖縄労福協緊サポおきなわ視察研修(~6日) 那覇市

10(火) 消団連米粉を使ったロールーキ作り教室 JA金沢

ろうきん運動推進委員合同会議 片山津

16(月) LSC幹部研修会 和倉

17(火) 中部労福協第1回代表者会議(~18日) 守山市

20(金) 金沢勤労者SC評議員会 勤労者プラザ

23(月) 第2回石川県消費者学校 労済会館

24(火) 労福協第6回理事会 フレンドパーク石川